

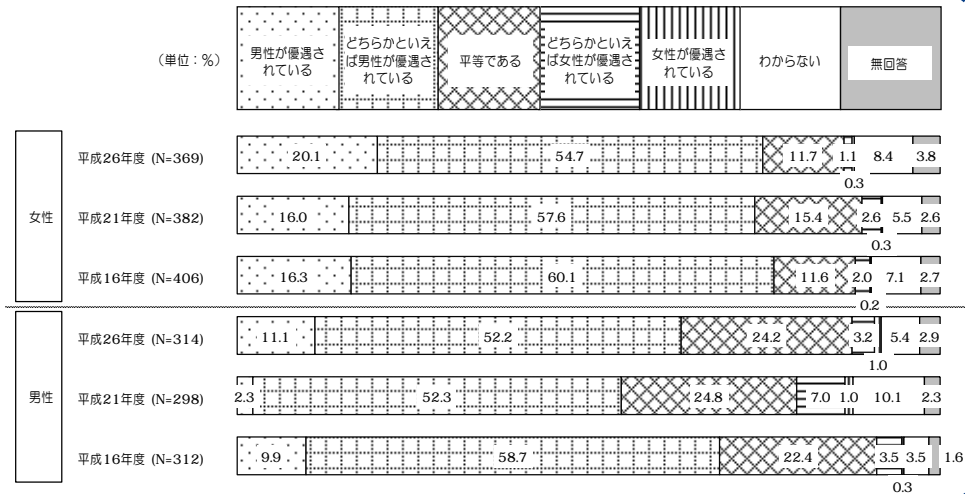
# 男女共同参画社会に関する府民意識調査概要

平成26年11月

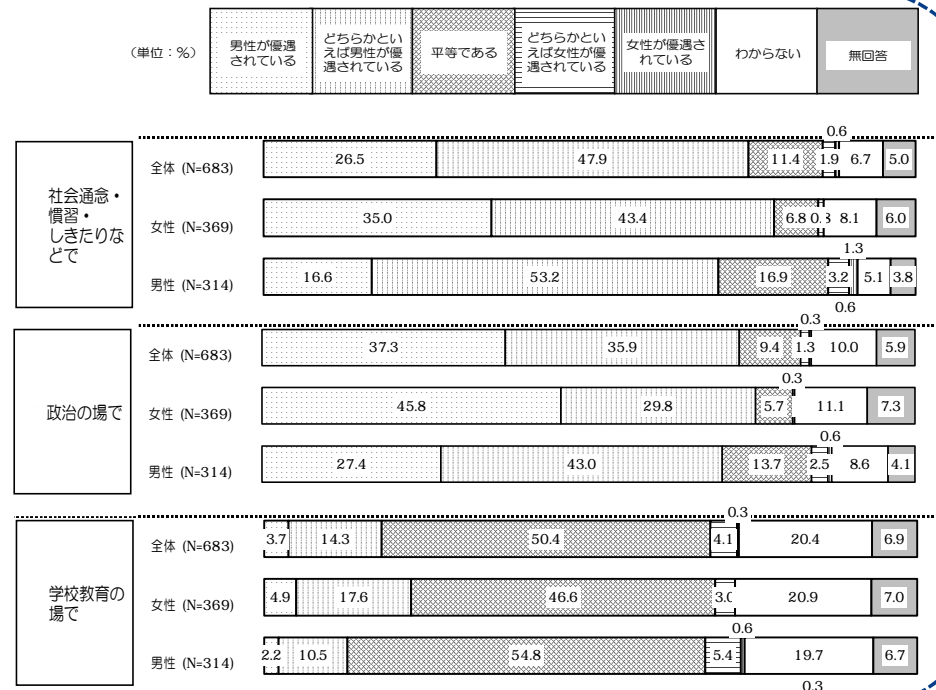
調査時期 平成26年7月1日～18日  
調査地域 大阪府内全域  
標本数 2,000 (有効回収数683 (34.2%))  
男性46% 女性54%

# 1 男女平等の現状認識

平成21年度調査と比較すると、『男性優遇』と感じている割合は、女性ではほとんど変わらないが、男性では8.7ポイント増加している。



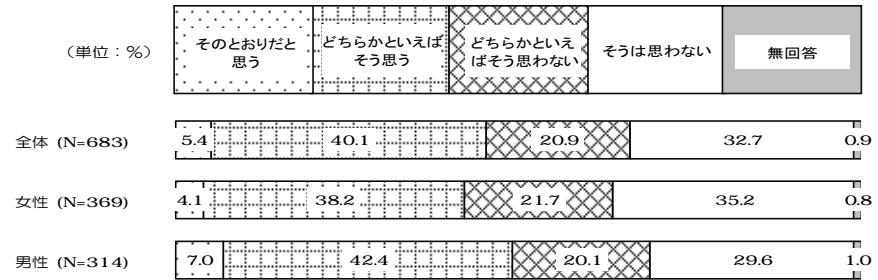
分野別では、男女とも「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」で『男性が優遇』されていると感じている割合が特に高く、女性で75%以上、男性で約70%となっている。



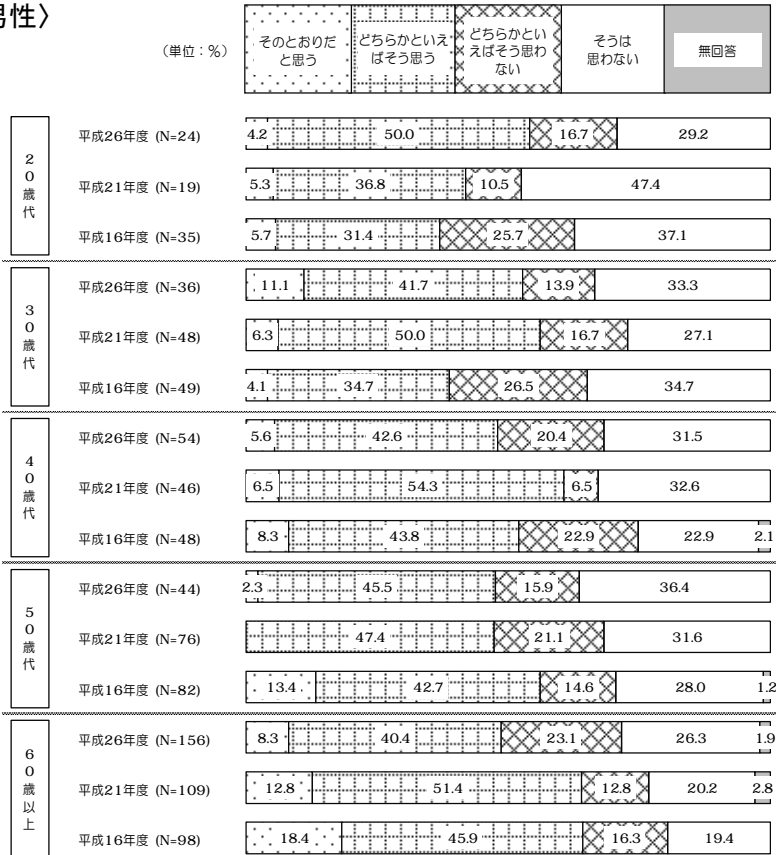
「平等である」と感じている割合が高かったのは「学校教育の場」で、女性で46.6%、男性で54.8%となっている。

## 2 性別役割分担意識

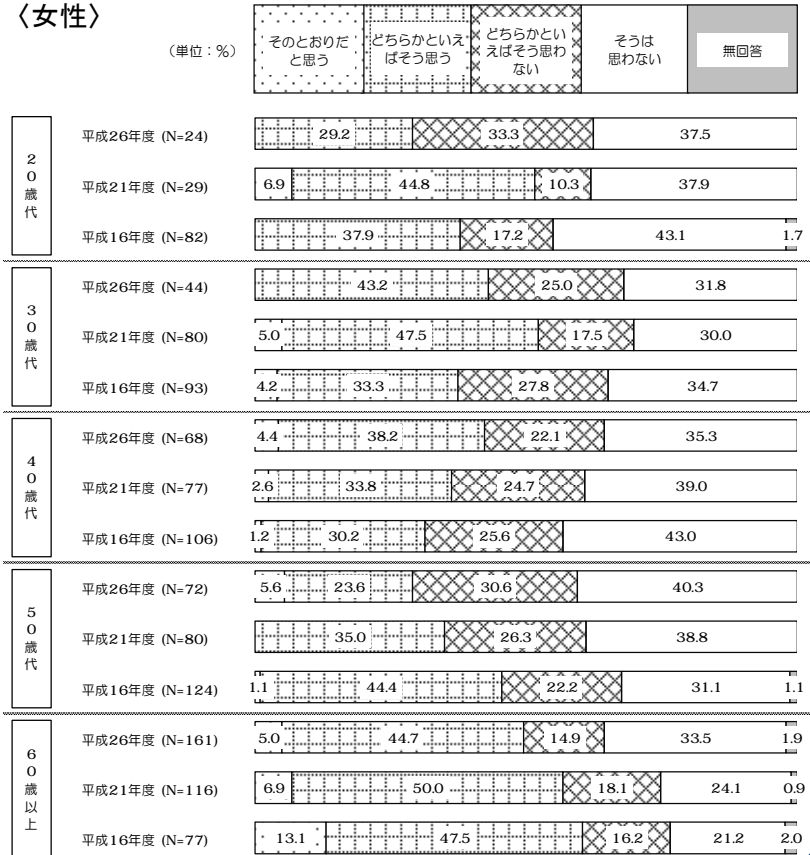
「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人は53.6%で過半数を超えている。  
 平成21年度調査と比較すると、20歳代男性で「同感する」割合が12.1ポイント増加して過半数を超えている。



### 〈男性〉

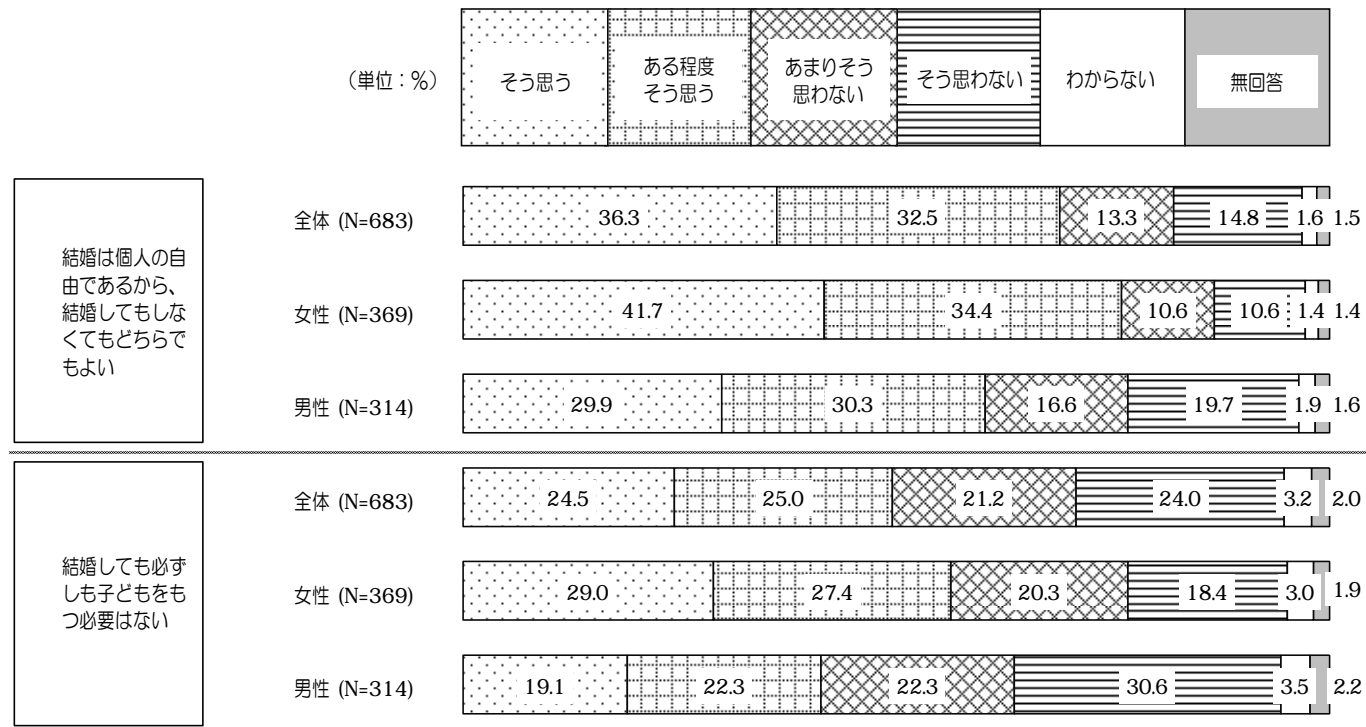


### 〈女性〉



### 3 結婚、離婚に関する考え方

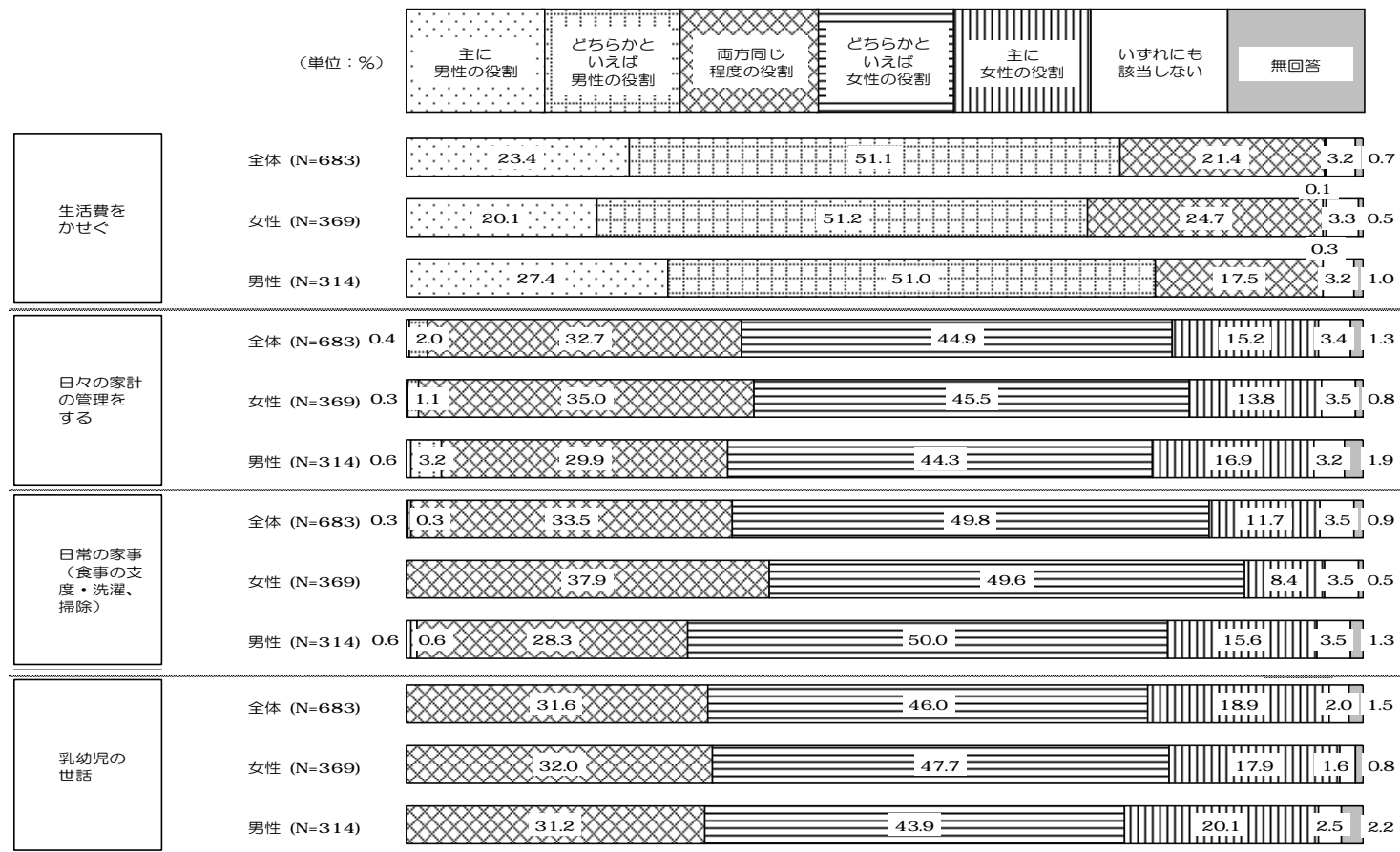
結婚、離婚に関する考え方をみると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方に女性の7割、男性の6割が「そう思う」と考えている。  
 また、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と考えている人は49.5%となっており女性は56.4%と男性より高くなっている。



## 4 家庭の仕事の役割分担

家庭の仕事の役割分担をみると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』と考えている人が、74.5%で最も高くなっている。

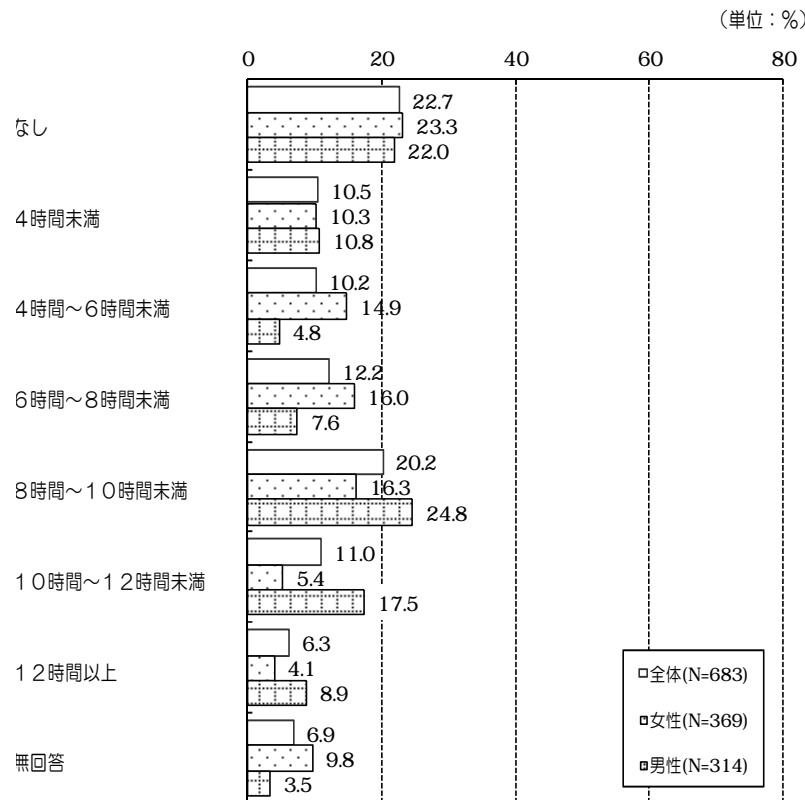
一方、「日々の家計を管理する」「日常の家事（食事の支度・洗濯・掃除）」「乳幼児の世話」は、『女性の役割』と考えている人がいずれも6割を超えている。



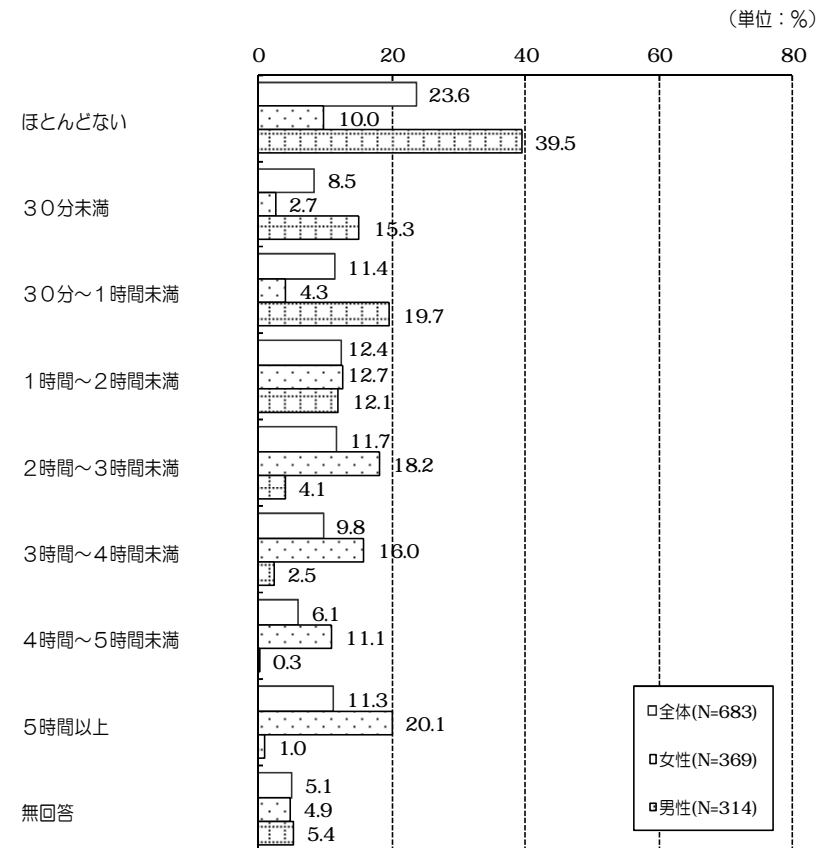
## 5 仕事・家庭に要する時間

平日に仕事に要する時間について、8時間以上である女性は25.8%、男性で51.2%となっている。また、家事に要する時間について、3時間以上である女性は47.2%となっている。一方、男性では30分未満が54.8%となっている。

【仕事に要する時間（平日）】

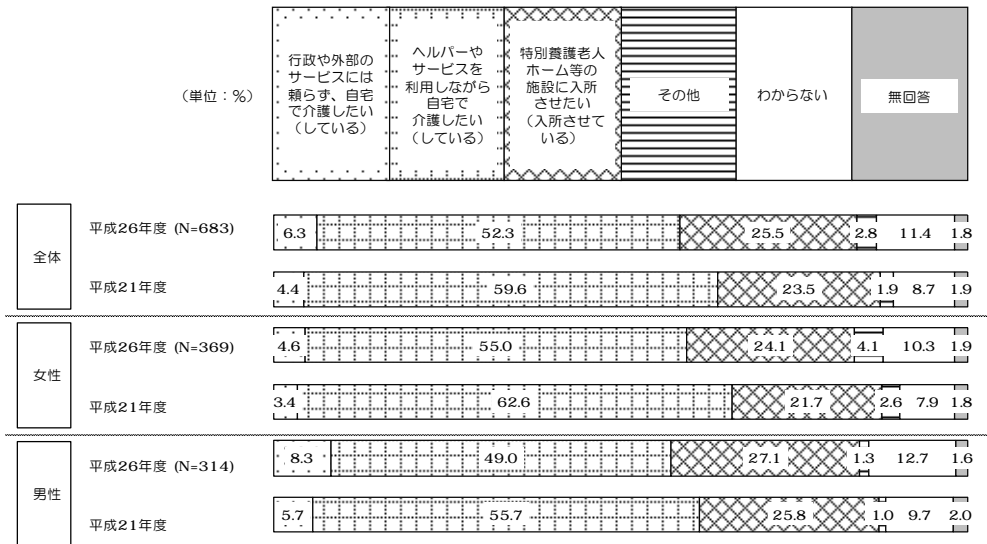


【家事に要する時間（平日）】

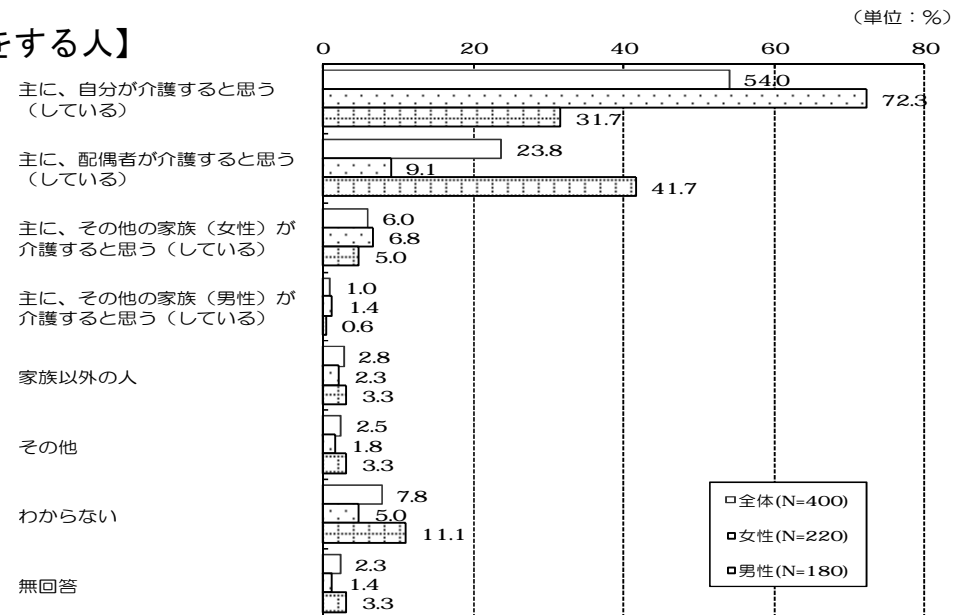


## 6 家族を介護する場合の希望

家族を介護する場合の希望は、「ヘルパーやサービスを利用しながら自宅で介護したい（している）」が52.3%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（させている）」が25.5%となっており、男女別でも同じ傾向となっているが、自宅で介護する場合には、「主に、配偶者が介護すると思う」は女性で9.1%だが、男性では41.7%と最も高くなっている。



### 【介護をする人】

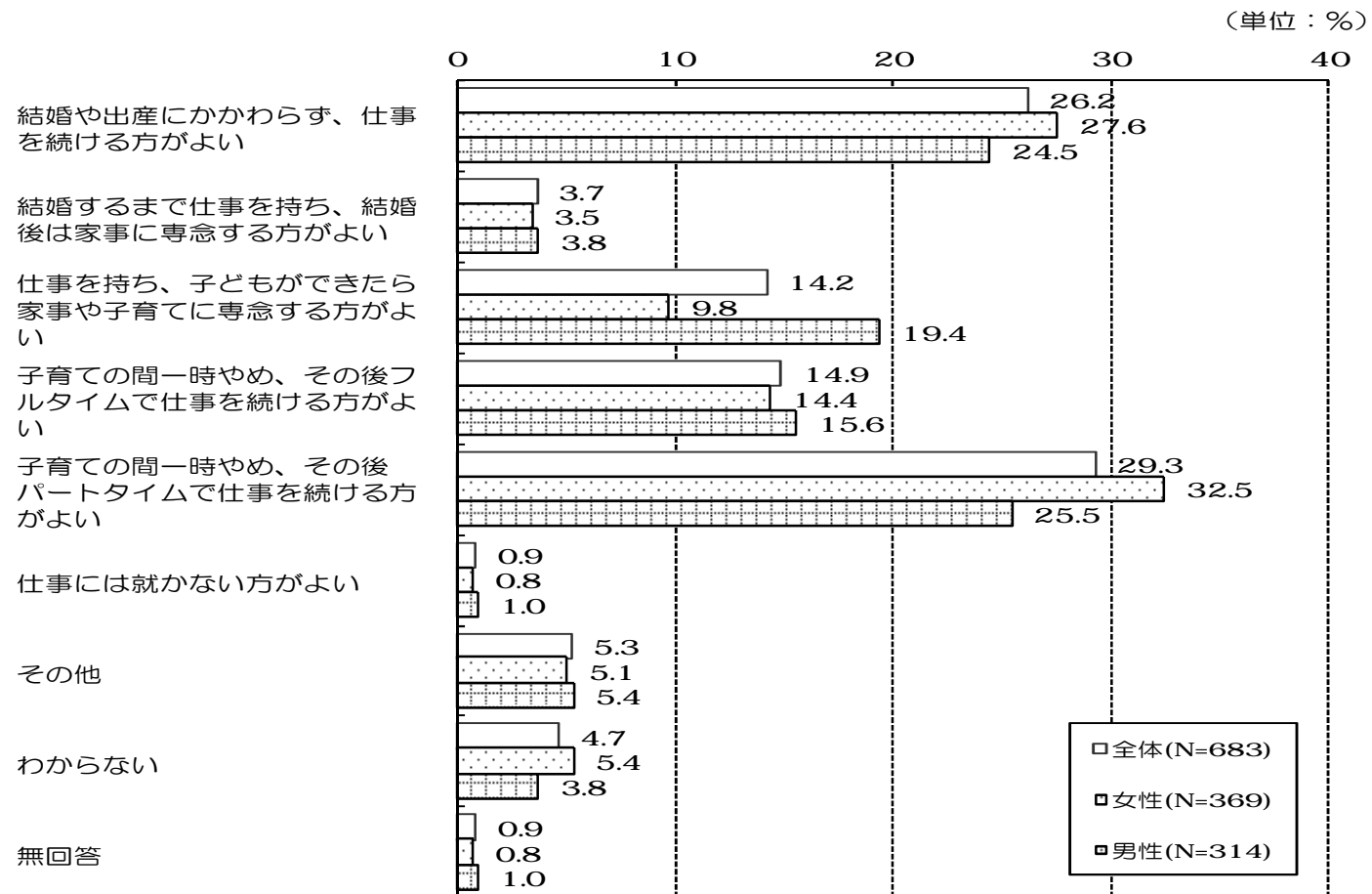




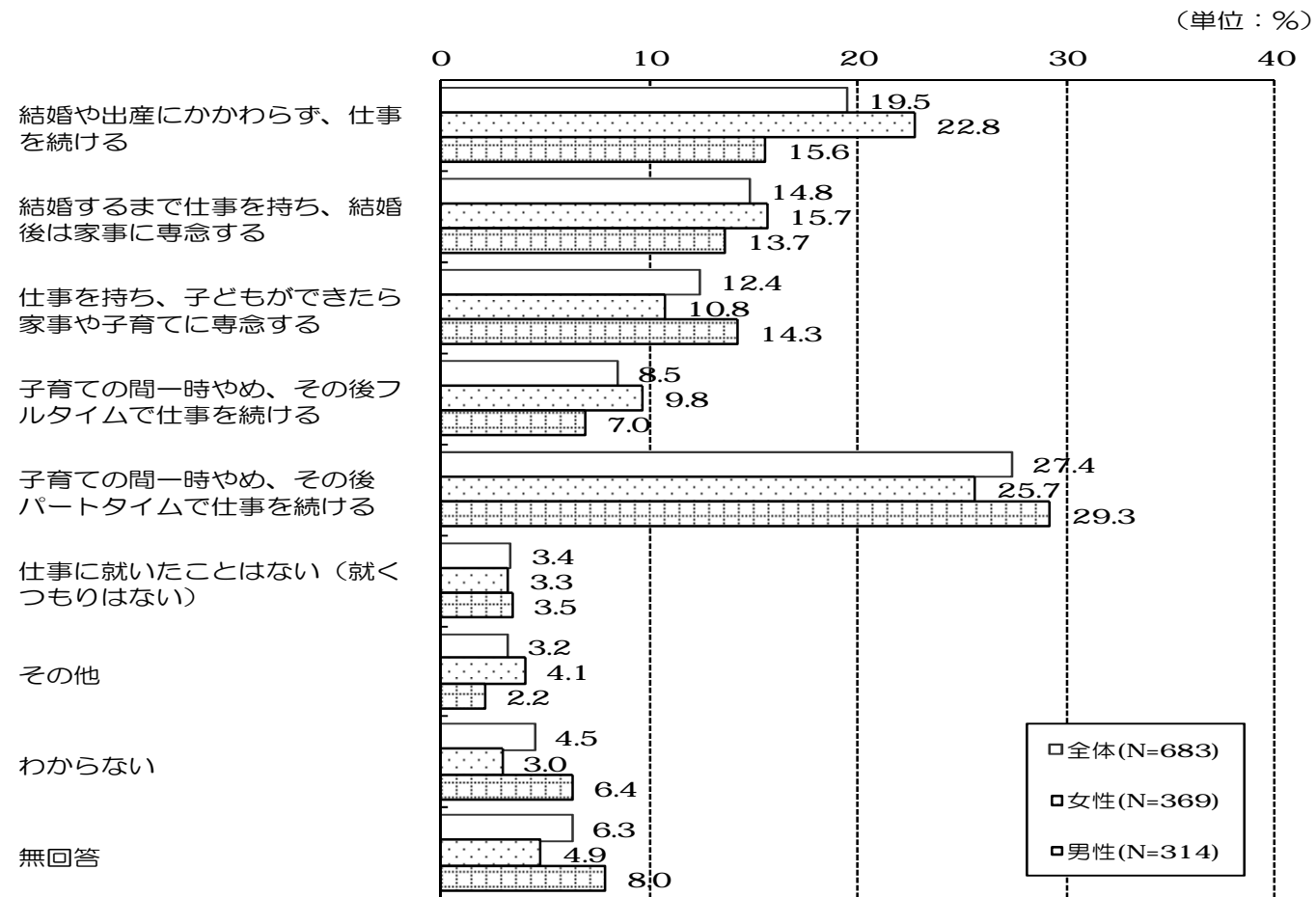
## 7 女性が仕事に就くことへの考え

女性が仕事に就くことへの考えは、「子育ての間一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が29.3%で最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が26.2%となっている。

性別でみると、「仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい」について、男性の方が女性より10ポイント近く高くなっている（女性9.8%、男性19.4%）。



実際の女性の働き方をみると、「子育ての間一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける」が27.4%で最も多い。次いで、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が19.5%となっており、性別でみると、女性22.8%、男性15.6%となっており、7.2ポイントの差がある。

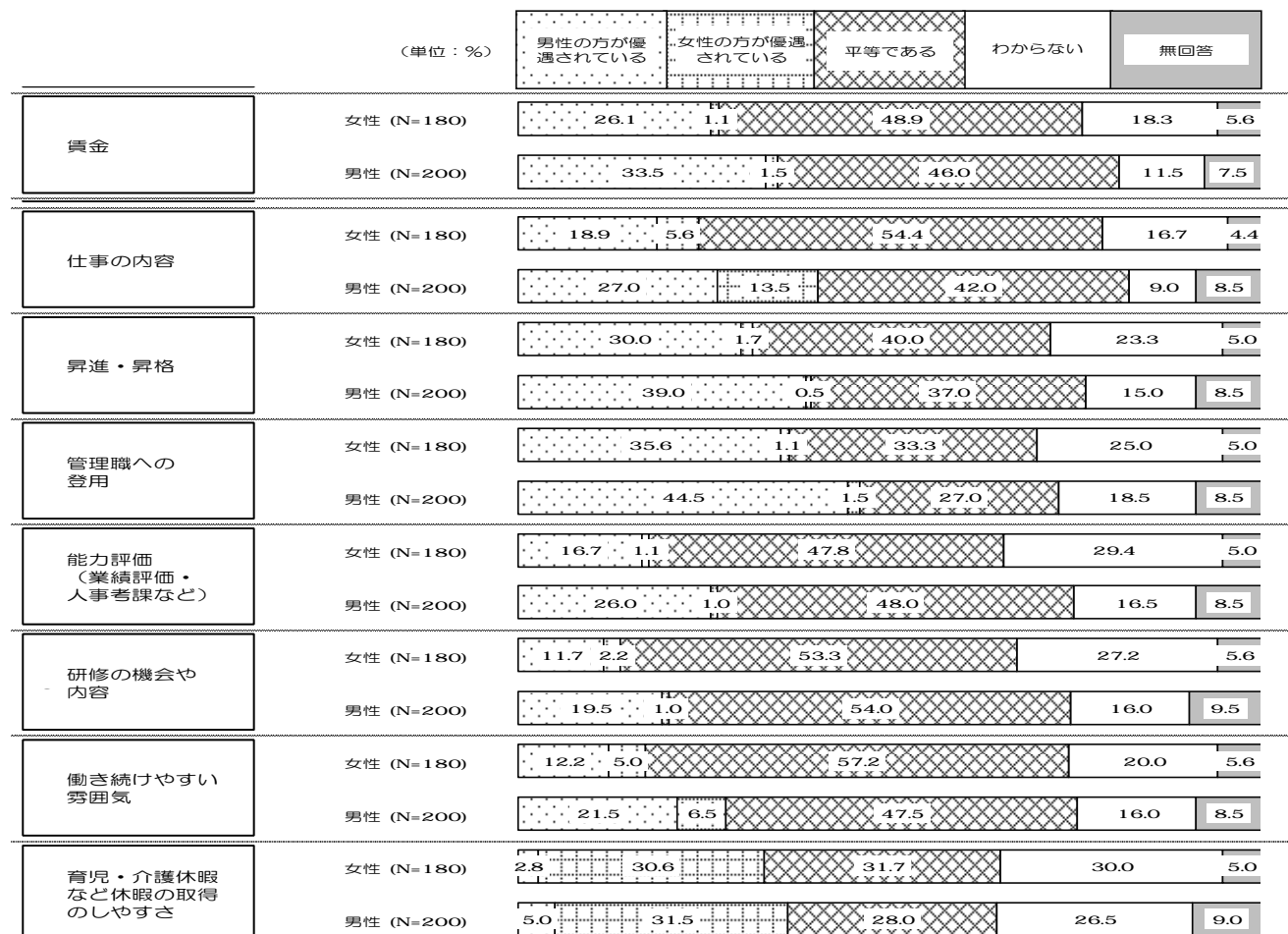


## 8 職場において男女格差を感じること

職場において「男性の方が優遇されている」と感じるでは「管理職への登用」（女性35.6%、男性44.5%）が最も高く、次いで「昇進・昇格」（女性30.0%、男性39.0%）となっている。

「女性の方が優遇されている」と感じることでは「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性30.6%、男性31.5%）が高くなっている。

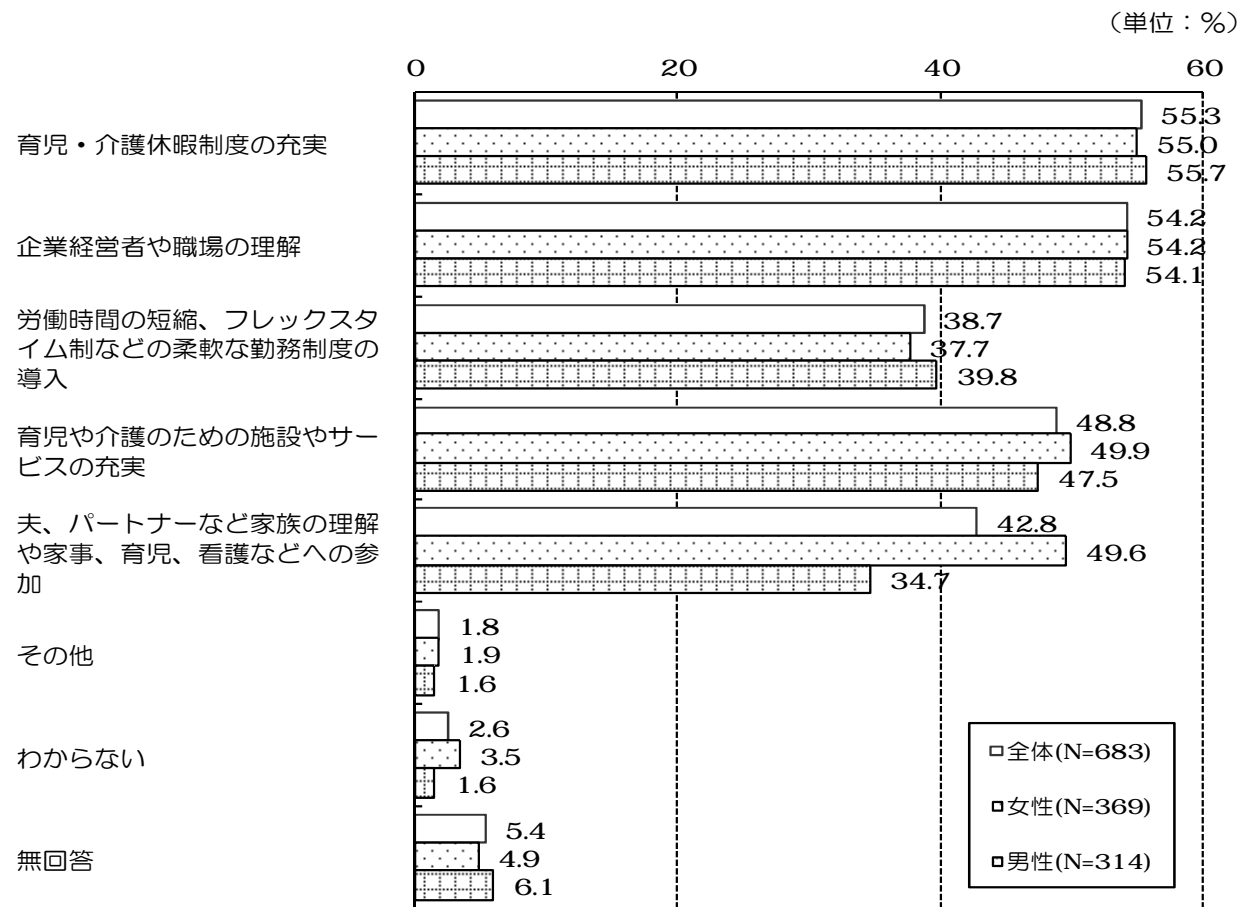
いずれの項目も、男性の方が「男性の方が優遇されている」と思っている割合が高い。



## 9 女性が働き続けるために必要なこと

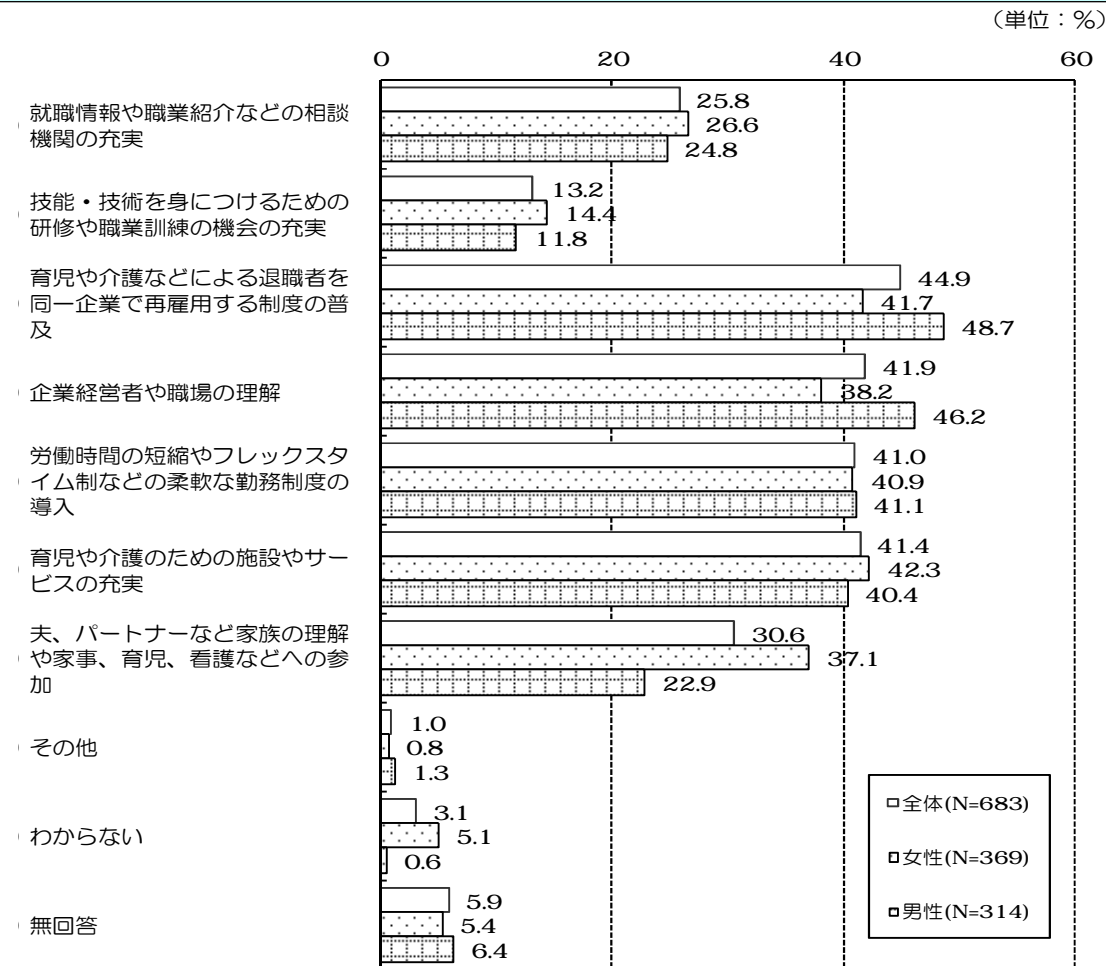
女性が働き続けるために必要なことは、「育児・介護休暇制度の充実」が55.3%、次いで「企業経営者や職場の理解」が54.2%となっている。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性49.6%、男性34.7%となっており、14.9ポイントの差がある。



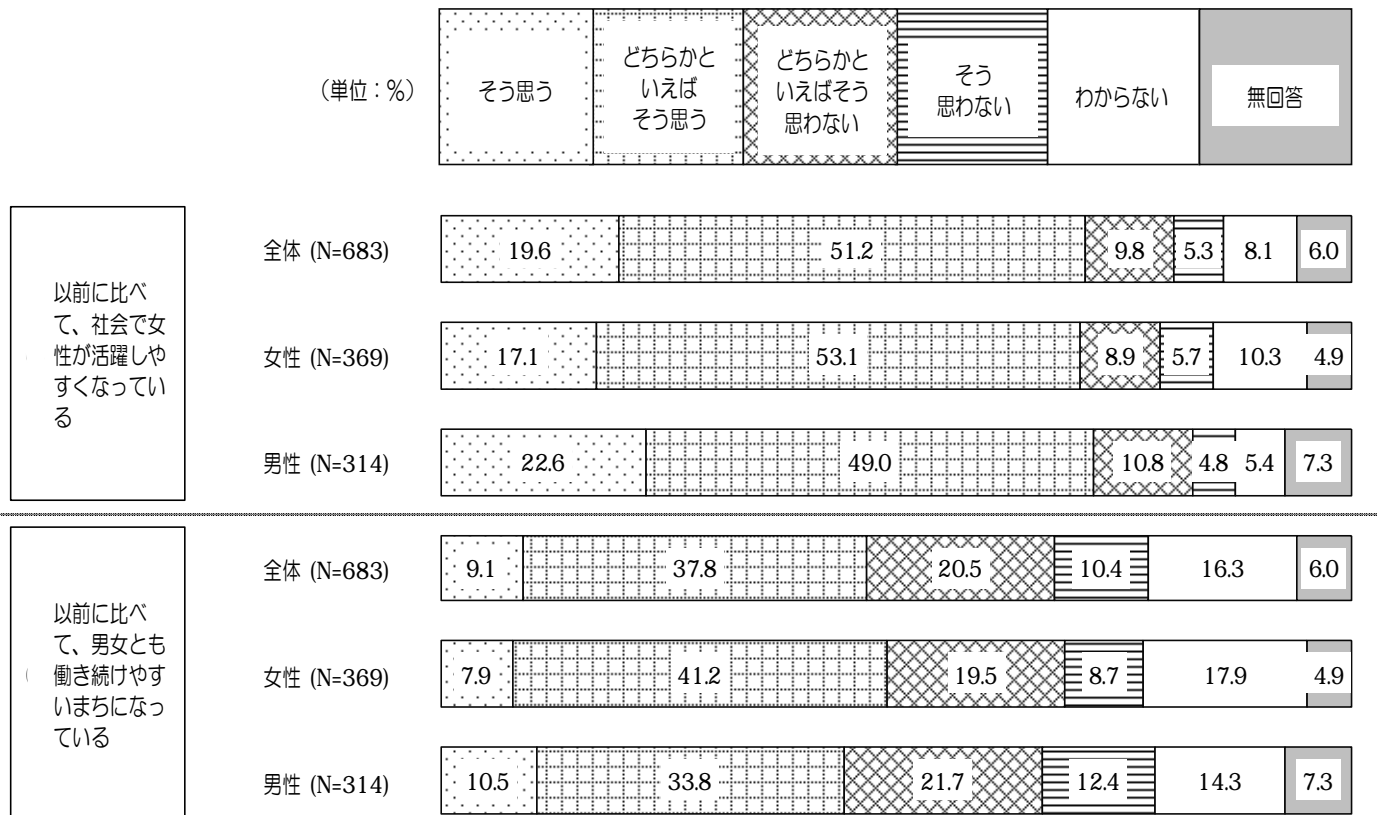
## 10 女性が再就職しやすくなるために必要なこと

女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(44.9%)、「企業経営者や職場の理解」(41.9%)、「育児や介護のための施設やサービスの充実」(41.4%)、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(41.0%)が高くなっている。



# 11 仕事・職場における男女共同参画の進展

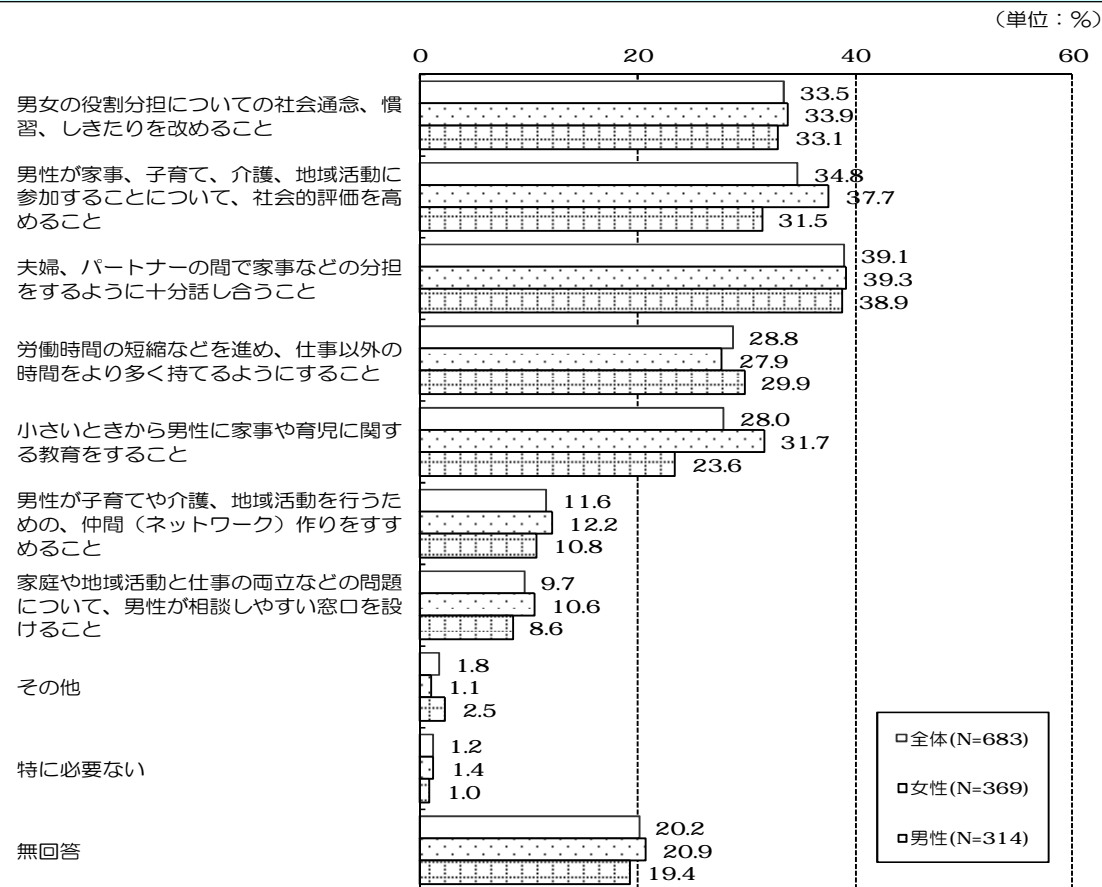
「以前に比べて、社会で女性が活躍しやすくなっている」について『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は70.8%、「以前に比べて、男女とも働き続けやすいまちになっている」は『そう思う』が46.9%となっている。



## 12 男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が39.1%で男女とも最も高くなっている。次いで、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が34.8%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が33.5%となっている。

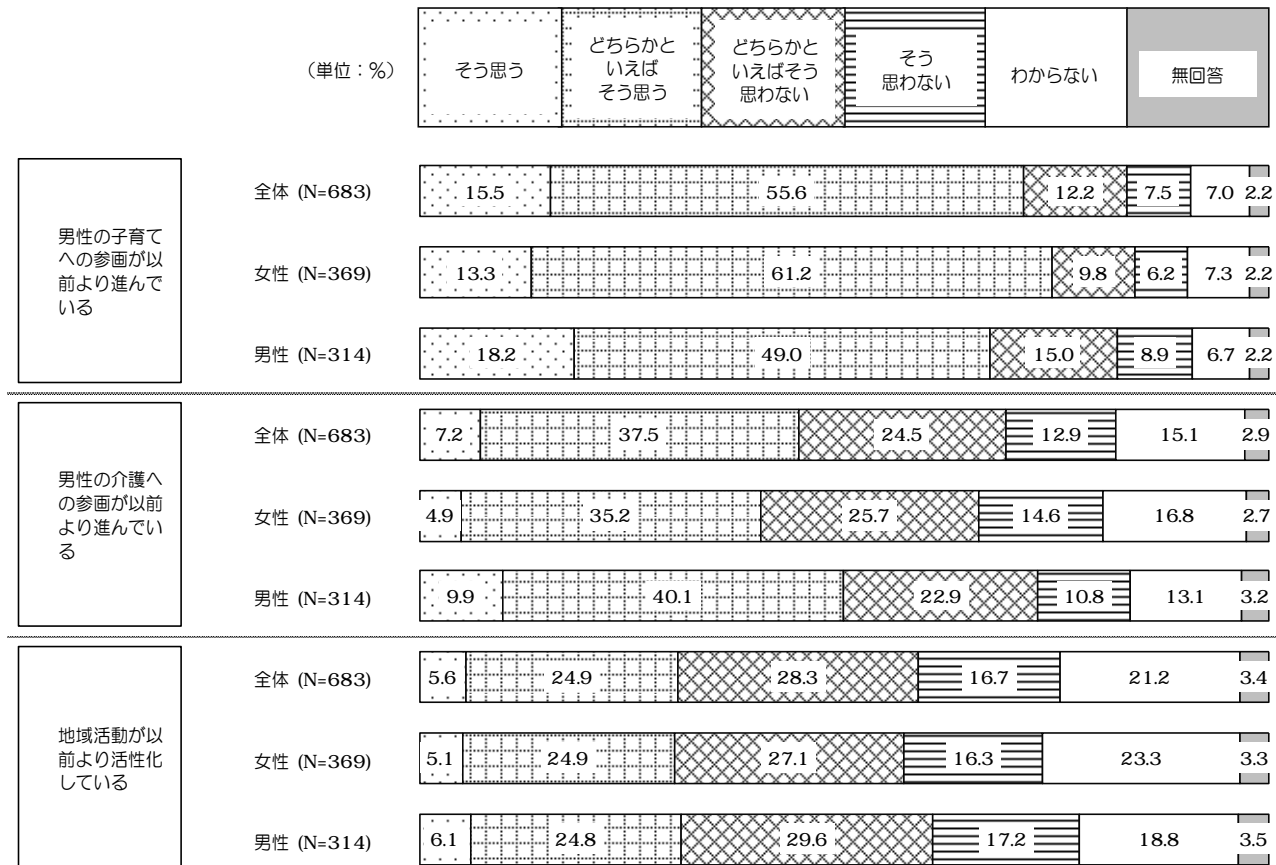
性別でみると「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」については男性よりも女性の方が8.1ポイント高くなっている。



## 13 地域・家事における男女共同参画の進展

地域、家事における男女共同参画の進展について、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）の割合を見てみると、「男性の子育てへの参画が以前より進んでいる」が71.1%、「男性の介護への参画が以前より進んでいる」が44.7%、「地域活動が以前より活性化している」が30.5%となっている。

性別でみると、「男性の子育てへの参画が以前より進んでいる」は女性の方が『そう思う』が7.3ポイント高く、「男性の介護への参画が以前より進んでいる」は男性の方が9.9ポイント高い。「地域活動が以前より活性化している」は男女ほぼ同割合となっている。



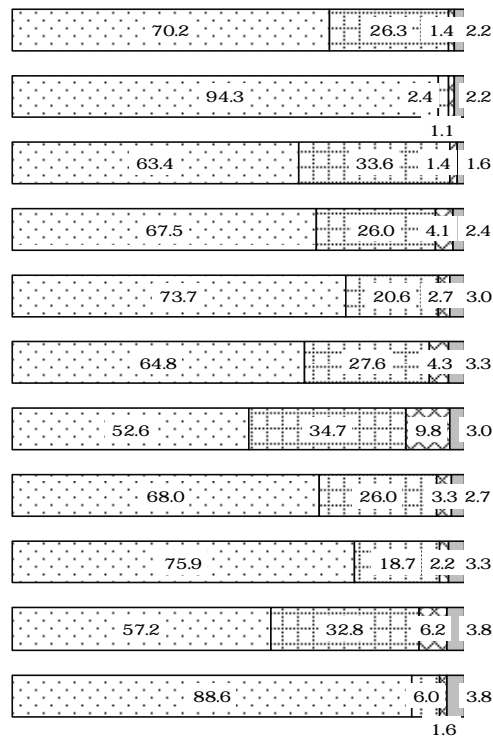
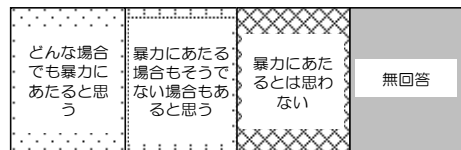


# 14 暴力だと思ふ事柄

暴力だと思ふ事柄について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」は男女とも9割を超えており、次いで「本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する」が男女とも8割を超えている。

性別でみると、概ね女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は高くなっており、特に「家具などの物にあたる、壊す」「何を言っても無視し続ける」は男性と比べて10ポイント以上高くなっている。

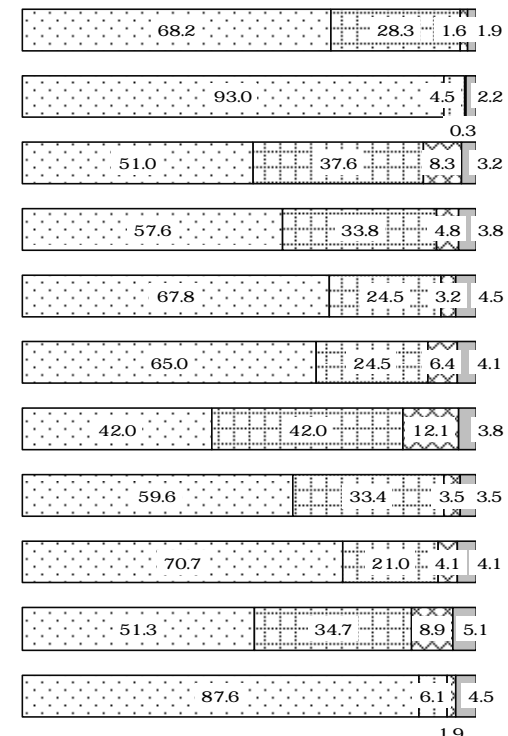
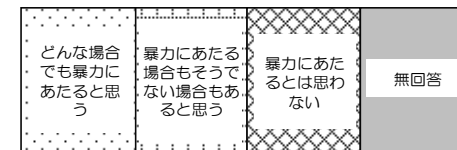
〈女性〉



(n=369)

〈男性〉

(単位：%)

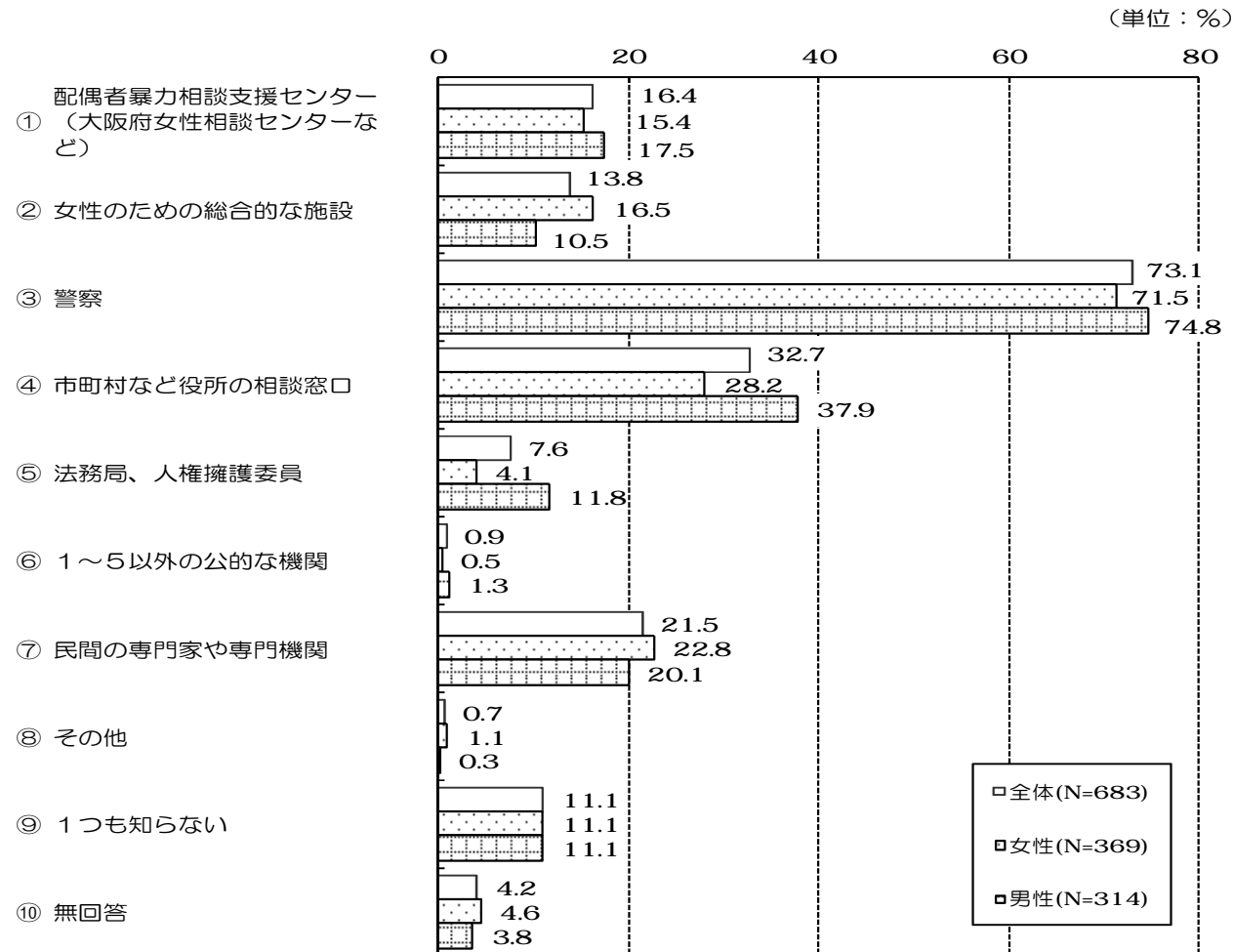


(n=314)

## 15 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度

配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口では「③警察」が73.1%で最もよく認知されている。次いで、「④市町村など役所の相談窓口」が32.7%、「⑦民間の専門家や専門機関」が21.5%となっている。

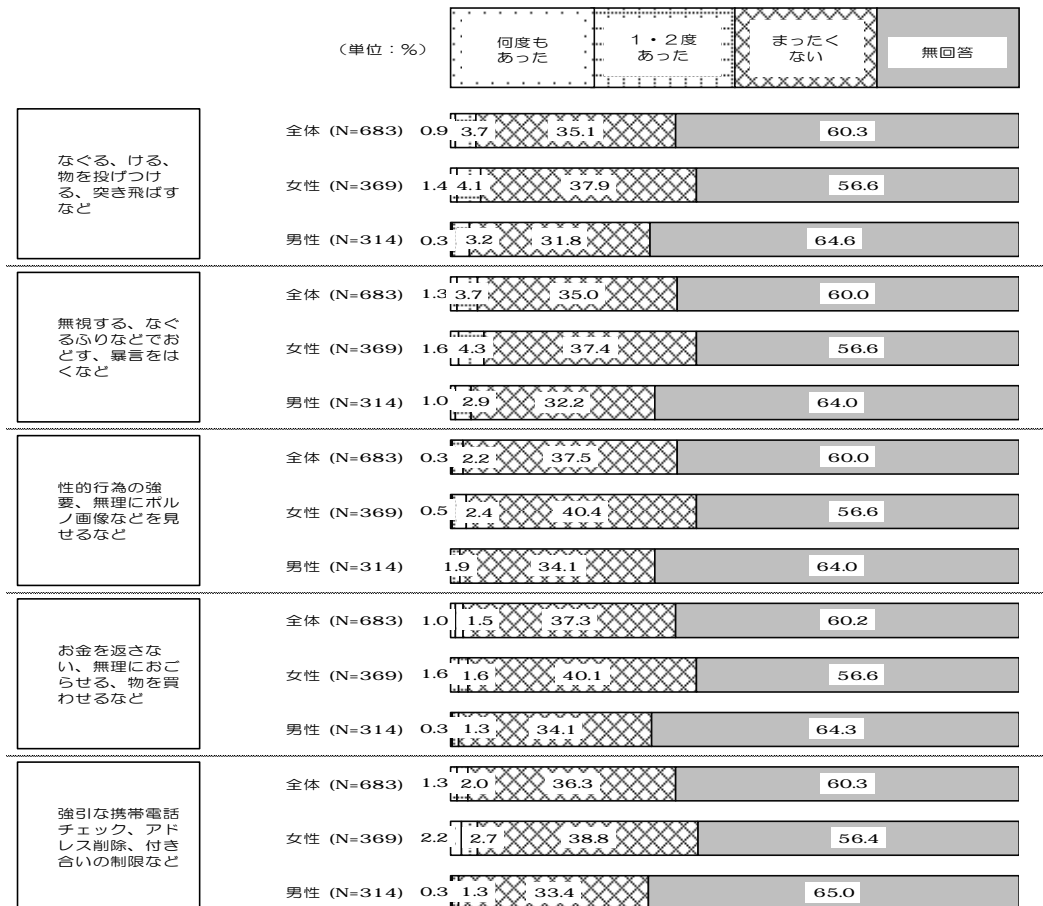
性別で見ると、「②女性のための総合的な施設」「⑦民間の専門家や専門機関」以外は、男性の認知度の方が高くなっている。



## 16 交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験

交際相手からの暴力（デートDV）を受けた経験について「何度もあった」でみると、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」と「強引な携帯電話チェック、アドレス削除、付き合いの制限など」がともに1.3%で最も多い。『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」を合わせた割合）でみると、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」が5.0%で最も多い。

性別で『あった』をみると、全ての項目で女性の方が高く、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」で5.9%、「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」で5.5%である。



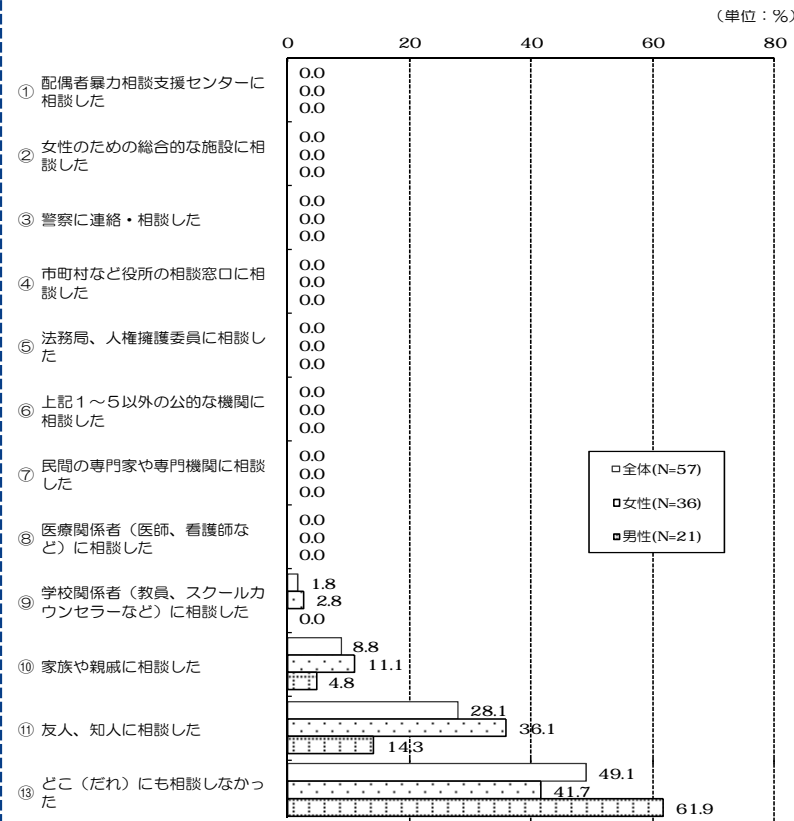
## 17 ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談先

ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談先をみると、デートDV、DVともほぼ半数が「⑬どこ（だれ）にも相談しなかった」としており、特に男性の割合が高くなっている。

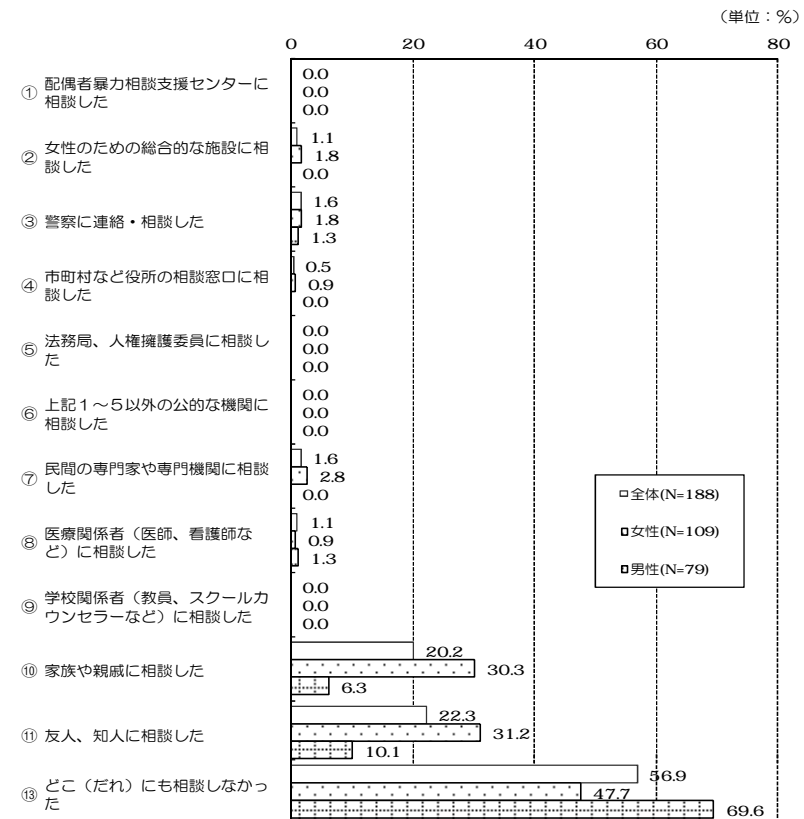
相談先は、デートDVの場合は主に「⑪友人、知人」（28.1%）となっており、次いで、「⑩家族や親戚」（8.8%）で、相談機関への相談はほとんどない。

DVの場合、主な相談先は「⑪友人、知人」（22.3%）、「⑩家族や親戚」（20.2%）が高い。相談機関では「⑦民間の専門家や専門機関」が女性で2.8%となっている。

〈交際相手からの暴力（デートDV）〉



〈配偶者等からの暴力（DV）〉

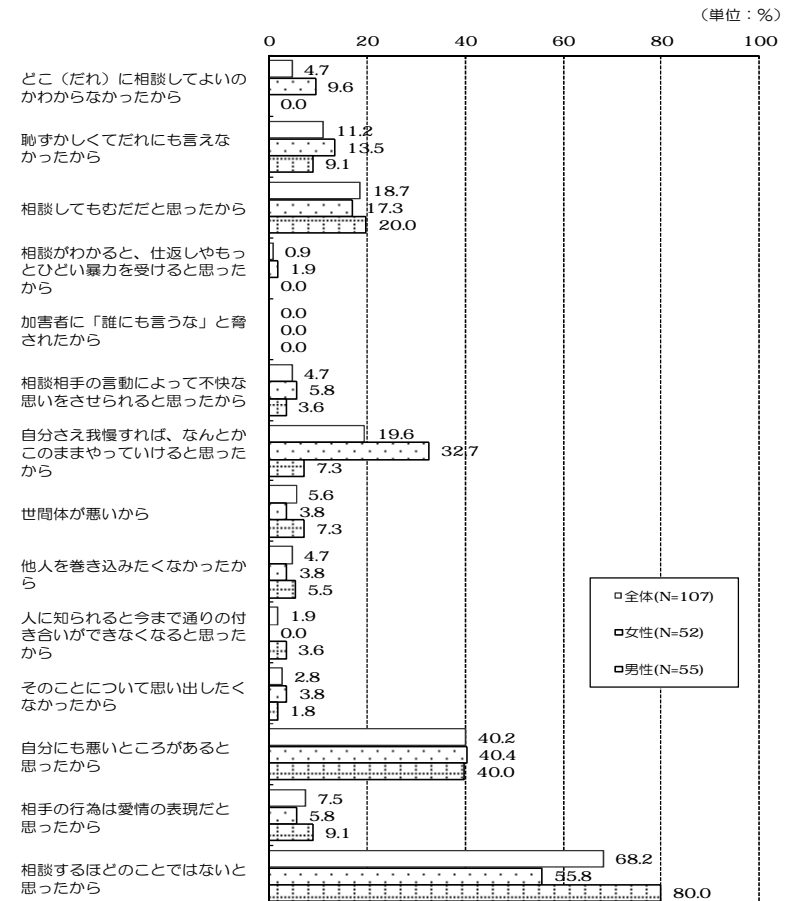
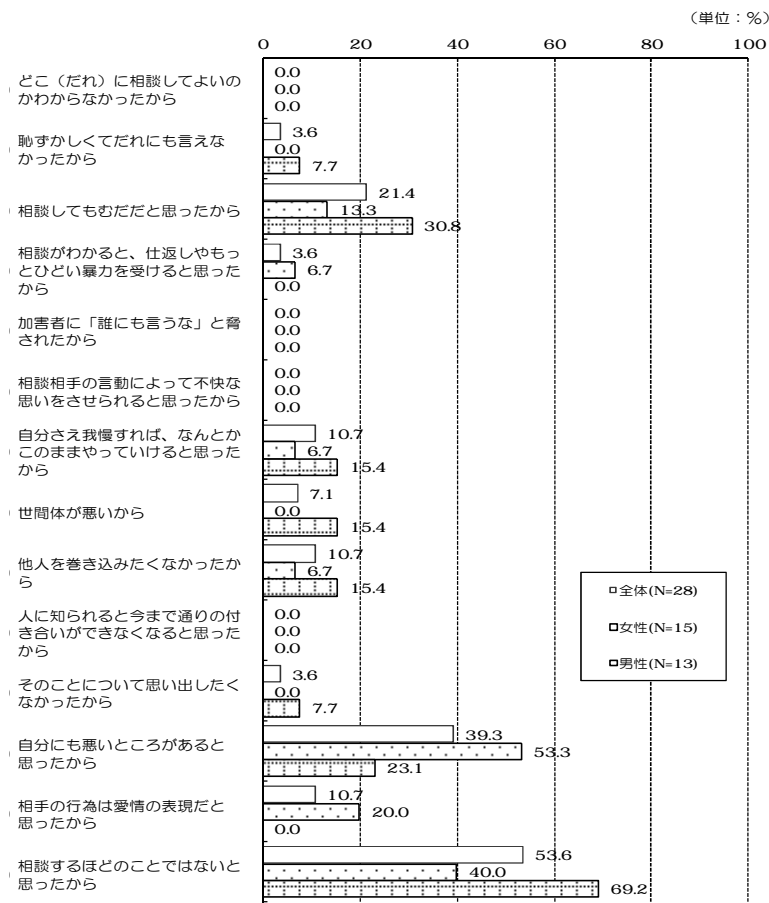


# 18 ドメスティック・バイオレンス（DV）を相談しなかった理由

ドメスティック・バイオレンス（DV）を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも最も高く、特に男性ではデートDVで69.2%、DVで80.0%となっている。次いで、女性では、デートDV、DVともに「自分にも悪いところがあると思ったから」が高くなっている。

〈交際相手からの暴力（デートDV）〉

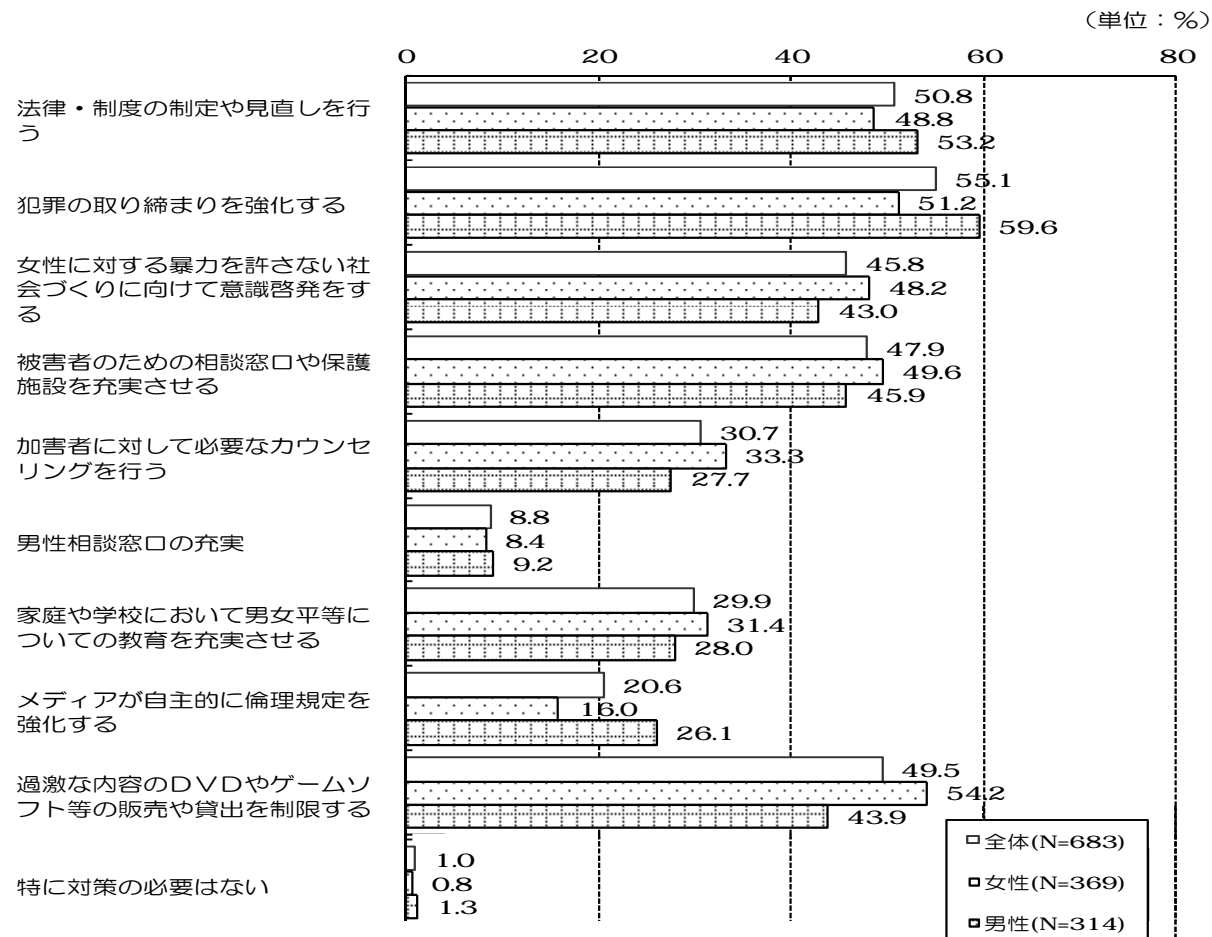
〈配偶者等からの暴力（DV）〉



## 19 女性に対する暴力をなくすためにもっと取り組みが必要なこと

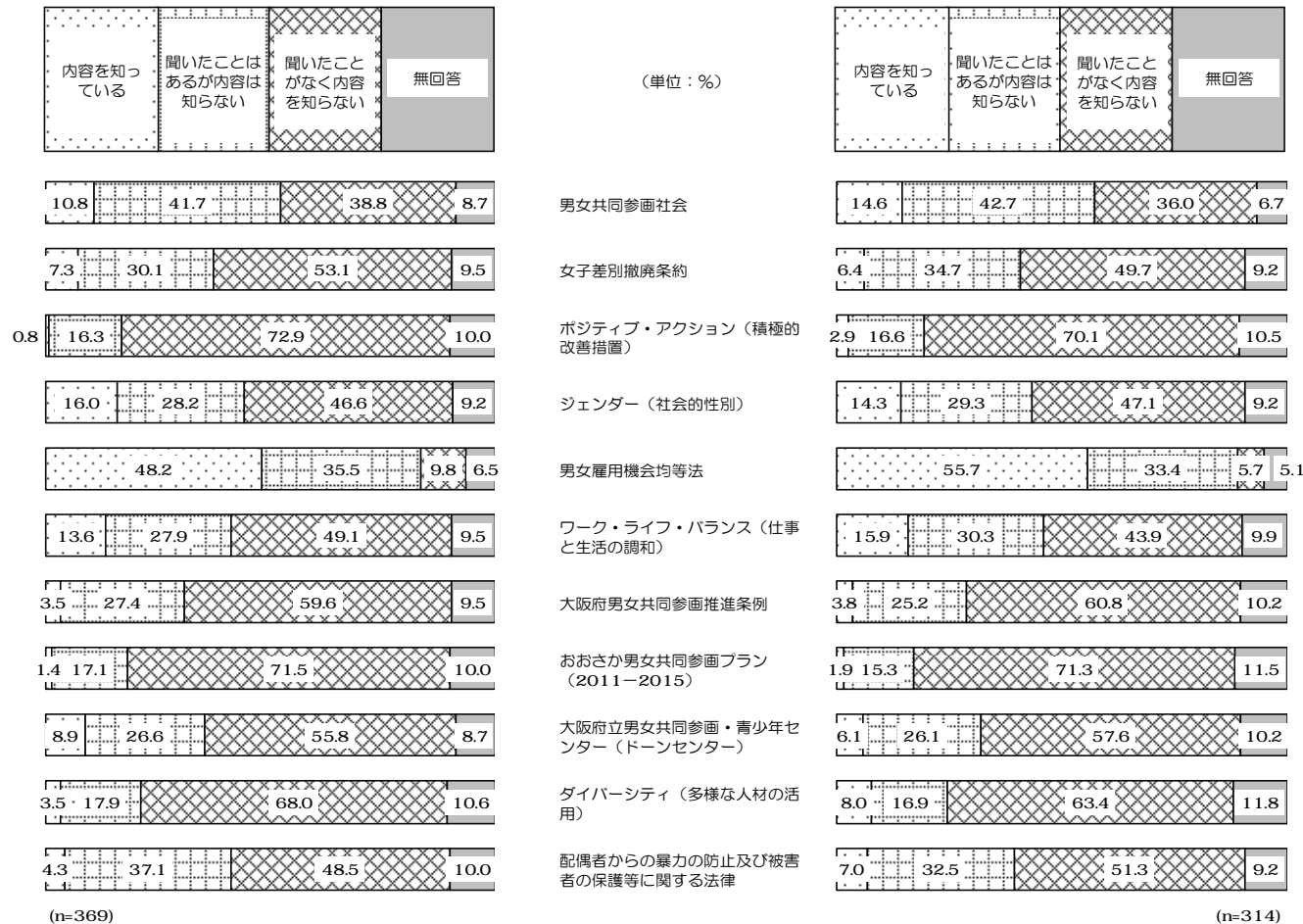
女性に対する暴力をなくすために必要な取組みは、「犯罪の取り締まりを強化する」が55.1%で最も高く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が50.8%、「過激な内容のDVDやゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が49.5%となっている。

性別で見ると、男性では「犯罪の取り締まりを強化する」が59.6%、女性は「過激な内容のDVDやゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が54.2%と高くなっている。



## 20 見聞きしたことがある言葉

男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』（「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合）でみると、「男女雇用機会均等法」が最も高く女性83.7%、男性89.1%となっており、そのうち「内容を知っている」は5割近くとなっている。次いで『聞いたことがある』が高いのは「男女共同参画社会」で女性52.5%、男性57.3%となっている。



## 21 男女平等の実現にとって最も重要なこと

男女平等の実現にとって最も重要なことは、「女性への偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が32.1%（女性33.6%、男性30.3%）で最も高くなっている。次に、「男性の意識改革」が27.4%で、女性と比べて男性の方が男性の意識改革が重要と思う割合が高くなっている（女性25.2%、男性29.9%）。

また、「女性自身が経済力をつけたり積極的に知識・技術の向上を図ること」は女性26.6%、男性15.0%で女性の方が11.6ポイント高くなっている。

